

令和元年度 主な事業の報告

令和元年度山形県青少年健全育成県民大会 令和元年10月27日（日）於新庄市民プラザ



《アトラクション》 新庄市立萩野学園 6年生による「萩野鹿子踊」

6年生18名が、萩野地区に伝わる五穀豊穡を祈願した鹿子踊を披露しました。萩野鹿子踊保存会による「鞆鼓」（かっこ）と呼ばれる小太鼓と「ささら」と呼ばれる竹で作った特殊な楽器の演奏によって、堂々とした舞を披露しました。



《事例発表》 「戸沢村における青少年健全育成の取り組み」

発表者 戸沢村青少年育成村民会議 副会長 荒川 精治 氏

自炊やもらい湯などを体験する通学合宿や最上川でのボート下り体験を通して、子ども達に社会力を育む取り組みについて紹介しました。子ども達は、地域の人や自然とのかかわりの中で、健やかな成長をとげていることが実感できました。

《講演》 演題「子ども達の健全な脳発達をささえるために～スマホや基本的な生活習慣の影響～」

講師 東北大学加齢医学研究所 所長 川島 隆太 氏

講演では、スマートフォンや睡眠不足が子ども達に及ぼす影響について、具体的なデータを基に解説していただきました。以下は、その概要です。

- 寝不足だとミトコンドリア機能（細胞の発電所）が落ちて、脳が働かない。
- スマートフォンは、学力低下を招くだけでなく、脳の発達を止めてしまう。
- 読書は、脳の発達を強く押し上げる。家庭習慣として、大人が読書習慣を持ちたい。
- 朝食は、きちんと食べる。少しでも多くの品目を増やす。（朝ごはんを豊かに）
- スマートフォンの利用は、①1時間以内、②必要性を考えて使う。



最上地区青少年育成懇談会

12月7日（土）於新庄市民プラザ

当日は、来賓の8市町村首長様を含め、88名の参加をいただき、開催することができました。

参加した高校生と大人が4グループに分かれ、テーマ「最上の良さを発信しよう！～魅力的な道の駅を考える～」について、熱心に意見交換しました。グループ討議では、「食べ物」・「楽しめること」・「施設・設備」の3つの視点について、アイデアを出し合いました。

地元の特産物を活かした食べ物や直売所、施設のバリアフリー化、足湯施設、四季折々のイベント開催などのアイデアが寄せられました。

参加した高校生や大人からは、「地域づくりについて考える貴重な機会であり、地域のことを知ることができる」、「他校や大人の人と交流し、意見交換できる楽しさ・新たな考えにふれられる良さを感じている」という感想が多く寄せられました。



生徒と地域の大人の対話会

11月23日（土・祝）於新庄東高等学校



生徒と大人計38名の参加を得て、「より分かりあえるコミュニケーションとは」をテーマに、コミュニケーションをと

る際に留意していることや対人関係づくりのために努力していることについて意見交換しました。

その中で、表情や態度などの非言語コミュニケーションや相手を意識した話し方・聞き方、語尾や言葉を吟味することの大切さを確認しました。

また、助言者からは、話が不得手でも「本当に困ったことがあったら、親や周りの大人に相談してほしい」という高校生へのアドバイスがありました。

編集後記

お忙しい中、玉稿をいただきました皆様方に心より御礼申し上げます。今年度は、山形県青少年健全育成県民大会が最上地区開催となり、本協議会の総力を結集して準備や運営にあたり、その団結力の素晴らしさを改めて感じました。